

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2003-233949

(P2003-233949A)

(43) 公開日 平成15年8月22日 (2003.8.22)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テラコード [*] (参考)
G 1 1 B 20/10	3 1 1	G 1 1 B 20/10	H 5 B 0 1 7
	3 2 1		3 1 1 5 B 0 6 5
	3 0 4		3 2 1 Z 5 D 0 4 4
C 0 6 F 3/06	3 2 0	G 0 6 F 3/06	3 0 4 H 5 D 0 9 0
12/14		12/14	3 2 0 E
審査請求 未請求 請求項の数24 O L (全 18 頁) 最終頁に続く			

(21) 出願番号	特願2002-289065(P2002-289065)	(71) 出願人	000006747 株式会社リコー 東京都大田区中馬込1丁目3番6号
(22) 出願日	平成14年10月1日(2002.10.1)	(72) 発明者	五島 洋 東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式 会社リコー内
(31) 優先権主張番号	特願2001-373346(P2001-373346)	(74) 代理人	100084250 弁理士 丸山 隆夫
(32) 優先日	平成13年12月6日(2001.12.6)		
(33) 優先権主張国	日本 (J P)		

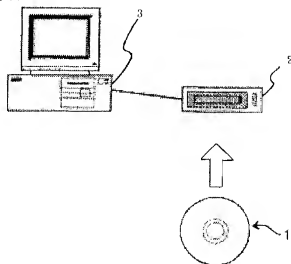
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 書き込み可能型光ディスク、光ディスク書き込み装置、媒体判定用プログラム、記録媒体、プログラム読み取り方法、及び情報処理システム

(57) 【要約】

【課題】 従来の光ディスク装置であっても、不正コピーされたディスクの使用を不能とでき、またはその用途を限定することができる媒体判定用プログラム、記録媒体、プログラム読み取り方法、及び情報処理システム等を提供する。

【解決手段】 プログラムは、ハイブリッドCD-Rディスク1の読み取り専用領域にアプリケーションプログラムと共に格納され、アプリケーションプログラムが読み取られる前に情報処理装置3に読み取られ、ハイブリッドCD-Rディスク1に予め形成されている読行溝に記録されている製造供給元毎に割り振られた固有情報が取得されない場合には、アプリケーションプログラムの読み取りを禁止又は許可し、取得された場合には、固有情報と判定用情報との比較によりハイブリッドCD-Rディスク1の正当性を判定し、正当であれば、アプリケーションプログラムの読み取りを許可し、不当であれば、その読み取りを禁止する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 予めソフトウェアが書き込まれている書き込み可能型光ディスクにおいて、前記ソフトウェアを起動する際に、前記ソフトウェアもしくはソフトウェアの関連プログラムが前記光ディスクのATIP (Absolute Time In Pre-groove)のディスク固有情報値を読み出し、前記情報値が正しいと判断された場合にのみ起動プロセスを続行し、前記情報値が誤りと判断された場合には起動プロセスを停止するよう構成したことを特徴とする書き込み可能型光ディスク。

【請求項2】 該光ディスクに予め書き込まれているソフトウェアを起動する際に、前記ソフトウェアが、前記光ディスクのATIPのディスク固有情報値と、前記ソフトウェア内に予め保持している判定用情報値とを比較し、両者が合致している場合にのみ起動プロセスを続行し、両者が異なっている場合には起動プロセスを停止するよう構成したことを特徴とする請求項1記載の書き込み可能型光ディスク。

【請求項3】 該光ディスクに予め書き込まれているソフトウェアを起動する際に、前記ソフトウェアが、前記光ディスクのATIPのディスク固有情報値と、前記光ディスクの特定領域に予め書き込まれている判定用情報値とを比較し、両者が合致している場合にのみ起動プロセスを続行し、両者が異なっている場合には起動プロセスを停止するよう構成したことを特徴とする請求項1記載の書き込み可能型光ディスク。

【請求項4】 該光ディスクの特定領域に予め書き込まれている判定用情報値を暗号化してあることを特徴とする請求項3記載の書き込み可能型光ディスク。

【請求項5】 請求項1から4のいずれか1項に記載の書き込み可能型光ディスクのATIPのディスク固有情報値と、前記光ディスクの特定領域に書き込むよう構成したことを特徴とする光ディスク書き込み装置。

【請求項6】 読み取り専用領域と書き込み可能領域とを備えた情報記録媒体の前記読み取り専用領域にメインプログラムと共に格納され、前記メインプログラムがコンピュータに読み取る前に、該コンピュータに読み取られる媒体判定用プログラムであって、前記情報記録媒体に予め形成されている蛇行溝に記録されている固有情報値を取得する固有情報取得工程と、該固有情報取得工程により前記固有情報値が取得できない場合には前記メインプログラムの読み取りを禁止する工程と、前記固有情報取得工程により前記固有情報値が取得できた場合には該固有情報値に基づいて前記情報記録媒体の正当性を判定する正当性判定工程と、該正当性判定工程により正当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを許可し、不当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを禁止する工程と、

を有することを特徴とする媒体判定用プログラム。

【請求項7】 読み取り専用領域と書き込み可能領域とを備えた情報記録媒体の前記読み取り専用領域にメインプログラムと共に格納され、コンピュータが前記メインプログラムを読み取るのに先立ち、該コンピュータに読み取られる媒体判定用プログラムであって、前記情報記録媒体に予め形成されている蛇行溝に記録されている固有情報値を取得する固有情報取得工程と、該固有情報取得工程により前記固有情報値が取得できない場合には前記メインプログラムの読み取りを許可する工程と、前記固有情報取得工程により前記固有情報値が取得できた場合には該固有情報値に基づいて前記情報記録媒体の正当性を判定する正当性判定工程と、該正当性判定工程により正当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを許可し、不当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを禁止する工程と、

を有することを特徴とする媒体判定用プログラム。

【請求項8】 前記固有情報値は、情報記録媒体の製造供給元毎に割り振られた製造供給元情報であり、前記固有情報取得工程は、前記製造供給元情報を読み出すことにより前記固有情報値を取得することを特徴とする請求項6または7に記載の媒体判定用プログラム。

【請求項9】 前記正当性判定工程は、前記固有情報と前記媒体判定用プログラム内に格納されている判定用情報値とを比較することにより前記正当性の判定を行うことを特徴とする請求項6、7または8記載の媒体判定用プログラム。

【請求項10】 前記正当性判定工程は、前記情報記録媒体上の前記固有情報値を取得した場所以外の所定領域に記録された判定用情報値を取得し、該判定用情報値と前記固有情報値とを比較することにより前記正当性の判定を行うことを特徴とする請求項6、7または8記載の媒体判定用プログラム。

【請求項11】 前記判定用情報は暗号化されて記録されており、前記正当性判定工程は、前記暗号化されている判定用情報値を復号した情報と前記固有情報値とを比較することにより前記正当性の判定を行うことを特徴とする請求項10記載の媒体判定用プログラム。

【請求項12】 請求項6から11のいずれか1項に記載の媒体判定用プログラムを前記メインプログラムと共に前記読み取り専用領域に記録したコンピュータ読み取り可能な情報記録媒体。

【請求項13】 読み取り専用領域と書き込み可能領域とを備え、前記読み取り専用領域にメインプログラムと媒体判定用プログラムの少なくとも一方が格納された情報記録媒体に対して前記メインプログラムをコンピュータで読み取る前に、前記媒体判定用プログラムをコンピュータで読み取るプログラム読み取り方法であって、

前記媒体判別用プログラムに基づいて前記情報記録媒体に予め形成されている蛇行溝に記録されている固有情報の取得を試み、

前記固有情報が取得できない場合には前記メインプログラムの読み取りを禁止し、

前記固有情報が取得できた場合には該固有情報に基づいて前記情報記録媒体の正当性を判定し、正当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを許可し、

不当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを禁止することを特徴とするプログラム読み取り方法。

【請求項 14】 読み取り専用領域と書き込み可能領域とを備え、前記読み取り専用領域にメインプログラムと媒体判別用プログラムの少なくとも一方が格納された情報記録媒体に対して前記メインプログラムをコンピュータで読み取る前に、前記媒体判別用プログラムをコンピュータで読み取るプログラム読み取り方法であって、前記媒体判別用プログラムに基づいて前記情報記録媒体に予め形成されている蛇行溝に記録されている固有情報の取得を試み、

前記固有情報が取得できない場合には前記メインプログラムの読み取りを許可し、

前記固有情報が取得できた場合には該固有情報に基づいて前記情報記録媒体の正当性を判定し、

正当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを許可し、

不当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを禁止することを特徴とするプログラム読み取り方法。

【請求項 15】 前記固有情報は前記情報記録媒体に予め記録されている情報記録媒体の製造供給元毎に割り振られた製造供給元情報であり、前記製造供給元情報を読み出すことにより前記固有情報を取得することを特徴とする請求項 13 または 14 記載のプログラム読み取り方法。

【請求項 16】 前記固有情報と、前記プログラムとは別の前記情報記録媒体に記録されているプログラム内に格納されている判定用情報と、を比較することにより前記正当性の判定を行なうことを特徴とする請求項 13、14 または 15 記載のプログラム読み取り方法。

【請求項 17】 前記情報記録媒体上の前記固有情報を取得した場所以外の所定領域に記録された判定用情報を取得し、該判定用情報と前記固有情報とを比較することにより前記正当性の判定を行なうことを特徴とする請求項 13、14 または 15 記載のプログラム読み取り方法。

【請求項 18】 前記判定用情報は暗号化されて記録されており、前記暗号化されている判定用情報を復号した情報と前記固有情報とを比較することにより前記正当性

の判定を行なうことを特徴とする請求項 17 記載のプログラム読み取り方法。

【請求項 19】 読み取り専用領域と書き込み可能領域とを備え、前記読み取り専用領域にメインプログラムと媒体判別用プログラムの少なくとも一方が格納された情報記録媒体と、該情報記録媒体に対して前記メインプログラムを読み取る前に、前記媒体判別用プログラムを読み取る情報処理装置とを備えた情報処理システムであって、

前記媒体判別用プログラムに基づいて前記情報記録媒体に予め形成されている蛇行溝に記録されている固有情報を取得する固有情報取得手段と、

該固有情報取得手段により前記固有情報が取得できない場合には前記メインプログラムの読み取りを禁止する手段と、

前記固有情報取得手段により前記固有情報が取得できた場合には該固有情報に基づいて前記情報記録媒体の正当性を判定する正当性判定手段と、

該正当性判定手段により正当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを許可し、不当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを禁止する手段と、

を備えたことを特徴とする情報処理システム。

【請求項 20】 読み取り専用領域と書き込み可能領域とを備え、前記読み取り専用領域にメインプログラムと媒体判別用プログラムの少なくとも一方が格納された情報記録媒体と、該情報記録媒体に対して前記メインプログラムを読み取る前に、前記媒体判別用プログラムを読み取る情報処理装置とを備えた情報処理システムであって、

前記媒体判別用プログラムに基づいて前記情報記録媒体に予め形成されている蛇行溝に記録されている固有情報を取得する固有情報取得手段と、

該固有情報取得手段により前記固有情報が取得できない場合には前記メインプログラムの読み取りを許可する手段と、

前記固有情報取得手段により前記固有情報が取得できた場合には該固有情報に基づいて前記情報記録媒体の正当性を判定する正当性判定手段と、

該正当性判定手段により正当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを許可し、不当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを禁止する手段と、

を備えたことを特徴とする情報処理システム。

【請求項 21】 前記固有情報と、前記情報記録媒体に予め記録されている情報記録媒体の製造供給元毎に割り振られた製造供給元情報であり、前記固有情報取得手段は、前記製造供給元情報を読み出すことにより前記固有情報を取得することを特徴とする請求項 19 または 20 記載の情報処理システム。

【請求項22】 前記正当性判定手段は、前記固有情報と前記プログラムとは別の前記情報記録媒体に記録されているプログラム内に格納されている判定用情報とを比較することにより前記正当性の判定を行なうことを特徴とする請求項19、20または21記載の情報処理システム。

【請求項23】 前記正当性判定手段は、前記情報記録媒体上の前記固有情報を取得した場所以外の所定領域に記録された判定用情報取得し、該判定用情報と前記固有情報とを比較することにより前記正当性の判定を行なうことを特徴とする請求項19、20または21記載の情報処理システム。

【請求項24】 前記判定用情報は、暗号化されて記録されており、前記正当性判定手段は、前記暗号化されている判定用情報を復号した情報と前記固有情報とを比較することにより前記正当性の判定を行なうことを特徴とする請求項23記載の情報処理システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は書き込み可能型光ディスク、光ディスク書き込み装置、媒体判定用プログラム、記録媒体、プログラム読み取り方法、及び情報処理システムに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、アプリケーションソフトウェア、制止画、動画などのコンテンツは、CD-ROMと互換をもった形態で配布（販売）されることが多い。

【0003】また、コンテンツの配布媒体には書込可能型CD（CD-R、CD-RW等）が多く用いられている。

【0004】さらに、最近では新たなコンテンツの配布媒体として、読み取り専用領域と書き込み可能領域を持つCD（ハイブリッドディスク）が開発されている。そして、このような読み取り専用領域と書き込み可能領域を持つCDを、CD-ROMの代替として、同ディスクの読み取り専用領域に予めコンテンツを書き込んだ状態で配布（販売）することが提案されて始めている。

【0005】そこで、これらのディスクに記録されているコンテンツの内容が他の媒体に不正にコピーされないよう数々の方法が提案されている。

【0006】従来の不正にコピー防止方法としては、ディスクに記録された各ディスクそれぞれ特有の固有情報によりコンテンツを暗号化してディスクに記録し、再生する場合には、この暗号化されたコンテンツを固有情報によって復号化する技術がある（例えば、特許文献1参照）。

【0007】また、正当なユーザの光ディスクドライブのIDを光ディスク上に記録し、このIDと現在使用中の光ディスクドライブのIDとを比較し、これらが一致

する場合に光ディスクに記録されているプログラムを起動する技術もある（例えば、特許文献2参照）。

【0008】さらには、ディスク及び再生許可媒体（例えばICカード）を再生装置にセットし、ディスクの再生管理情報とICカードの再生許可情報を読み込み、これらを照合することにより、ディスク内のコンテンツを再生する技術もある（例えば、特許文献3参照）。

【0009】

【特許文献1】特開2000-100068号公報

【特許文献2】特開2000-123479号公報

【特許文献3】特開平11-167769号公報

【0010】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来の不正コピー防止方法では、コンテンツ等の情報を再生等する場合にその不正コピー防止方法に対応した光ディスク装置が必要となるという問題があった。

【0011】本発明は、上記の問題点を解決するためになされたものであり、ディスクの情報再生等において特定の光ディスク装置を不要とし、従来の光ディスク装置であっても、不正コピーされたディスクの使用を不可能とすることができ、あるいは用途を限定することができる書き込み可能型光ディスク、光ディスク書き込み装置、媒体判定用プログラム、記録媒体、プログラム読み取り方法、及び情報処理システムを提供することを目的とする。

【0012】

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決するために、請求項1記載の発明によれば、書き込み可能型光ディスクは、予めソフトウェアが書き込まれている書き込み可能型光ディスクにおいて、ソフトウェアを起動する際に、ソフトウェアもしくはソフトウェアの関連プログラムが光ディスクのATIP（Absolute Time In Pre-groove）のディスク固有情報値を読み出し、情報値が正しいと判断された場合にのみ起動プロセスを続行し、情報値が誤りと判断された場合には起動プロセスを停止するよう構成したことを特徴とする。

【0013】請求項2記載の発明によれば、書き込み可能型光ディスクは、光ディスクに予め書き込まれているソフトウェアを起動する際に、ソフトウェアが、光ディスクのATIPのディスク固有情報値と、ソフトウェア内に予め保持している判定用情報値とを比較し、両者が合致している場合にのみ起動プロセスを続行し、両者が異なっている場合には起動プロセスを停止するよう構成した請求項1記載の書き込み可能型光ディスクであることを特徴とする。

【0014】請求項3記載の発明によれば、書き込み可能型光ディスクは、光ディスクに予め書き込まれているソフトウェアを起動する際に、ソフトウェアが、光ディスクのATIPのディスク固有情報値と、光ディスクの特定領域に予め書き込まれている判定用情報値とを比較

し、両者が合致している場合にのみ起動プロセスを続行し、両者が異なっている場合には起動プロセスを停止するよう構成した請求項 1 記載の書き込み可能型光ディスクであることを特徴とする。

【0015】請求項 4 記載の発明によれば、書き込み可能型光ディスクは、光ディスクの特定領域に予め書き込まれている判定用情報値を暗号化してある請求項 3 記載の書き込み可能型光ディスクであることを特徴とする。

【0016】請求項 5 記載の発明によれば、光ディスクの書き込み装置は、請求項 1 から 4 のいずれか 1 項に記載の書き込み可能型光ディスクの A T I P のディスク固有情報値を、光ディスクの特定領域に書き込むよう構成したことを特徴とする。

【0017】請求項 6 記載の発明によれば、媒体判定用プログラムは、読み取り専用領域と書き込み可能領域とを備えた情報記録媒体の読み取り専用領域にメインプログラムと共に格納され、メインプログラムがコンピュータで読み取られる前に、コンピュータに読み取られる媒体判定用プログラムであって、情報記録媒体に予め形成されている蛇行溝に記録されている固有情報を取得する固有情報取得工程と、固有情報取得工程により固有情報が取得できない場合にはメインプログラムの読み取りを禁止する工程と、固有情報取得工程により固有情報が取得できた場合には固有情報に基づいて情報記録媒体の正当性を判定する正当性判定工程と、正当性判定工程により正当であると判断された場合にはメインプログラムの読み取りを許可し、不当であると判断された場合にはメインプログラムの読み取りを禁止する工程とを有することを特徴とする。

【0018】請求項 7 記載の発明によれば、媒体判定用プログラムは、読み取り専用領域と書き込み可能領域とを備えた情報記録媒体の読み取り専用領域にメインプログラムと共に格納され、コンピュータがメインプログラムを読み取るのに先立ち、コンピュータに読み取られる媒体判定用プログラムであって、情報記録媒体に予め形成されている蛇行溝に記録されている固有情報を取得する固有情報取得工程と、固有情報取得工程により固有情報が取得できない場合にはメインプログラムの読み取りを許可し、不当であると判断された場合にはメインプログラムの読み取りを禁止する工程とを有することを特徴とする。

【0019】請求項 8 記載の発明によれば、媒体判定用プログラムは、固有情報は、情報記録媒体の製造供給元毎に割り振られた製造供給元情報であり、固有情報取得工程は、前記製造供給元情報を読み出すことにより前記固有情報を取得することを特徴とする請求項 6 または 7

に記載の媒体判定用プログラム。

【0020】請求項 9 記載の発明によれば、媒体判定用プログラムは、正当性判定工程は、固有情報と媒体判定用プログラム内に格納されている判定用情報とを比較することにより正当性の判定を行なう請求項 6、7 または 8 記載の媒体判定用プログラムであることを特徴とする。

【0021】請求項 10 記載の発明によれば、媒体判定用プログラムは、正当性判定工程は、情報記録媒体上の固有情報を取得した場所以外の所定領域に記録された判定用情報を取得し、判定用情報と固有情報とを比較することにより正当性の判定を行なう請求項 6、7 または 8 記載の媒体判定用プログラムであることを特徴とする。

【0022】請求項 11 記載の発明によれば、媒体判定用プログラムは、判定用情報は暗号化されて記録されており、正当性判定工程は、暗号化されている判定用情報を復号した情報と固有情報とを比較することにより正当性の判定を行なう請求項 10 記載の媒体判定用プログラムであることを特徴とする。

【0023】請求項 12 記載の発明によれば、記録媒体は、請求項 6 から 11 のいずれか 1 項に記載の媒体判別用プログラムをメインプログラムと共に読み取り専用領域に記録したコンピュータ読み取り可能な情報記録媒体であることを特徴とする。

【0024】請求項 13 記載の発明によれば、プログラム読み取り方法は、読み取り専用領域と書き込み可能領域とを備え、読み取り専用領域にメインプログラムと媒体判別用プログラムの少なくとも一方が格納された情報記録媒体に対してメインプログラムをコンピュータで読み取る前に、媒体判別用プログラムをコンピュータで読み取るプログラム読み取り方法であって、媒体判別用プログラムに基づいて情報記録媒体に予め形成されている蛇行溝に記録されている固有情報の取得を試み、固有情報が取得できない場合にはメインプログラムの読み取りを禁止し、固有情報が取得できた場合には固有情報に基づいて情報記録媒体の正当性を判定し、正当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを許可し、不当であると判断された場合にはメインプログラムの読み取りを禁止することを特徴とする。

【0025】請求項 14 記載の発明によれば、プログラム読み取り方法は、読み取り専用領域と書き込み可能領域とを備え、読み取り専用領域にメインプログラムと媒体判別用プログラムの少なくとも一方が格納された情報記録媒体に対してメインプログラムをコンピュータで読み取る前に、媒体判別用プログラムをコンピュータで読み取るプログラム読み取り方法であって、媒体判別用プログラムに基づいて情報記録媒体に予め形成されている蛇行溝に記録されている固有情報の取得を試み、固有情報が取得できない場合にはメインプログラムの読み取りを許可し、固有情報が取得できた場合には固有情報に基

づいて情報記録媒体の正当性を判定し、正当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを許可し、不当であると判断された場合にはメインプログラムの読み取りを禁止することを特徴とする。

【0026】請求項15記載の発明によれば、プログラム読み取り方法は、固有情報は情報記録媒体に予め記録されている情報記録媒体の製造供給元毎に割り振られた製造供給元情報であり、製造供給元情報を読み出すことにより固有情報を取得する請求項13または14記載のプログラム読み取り方法であることを特徴とする。

【0027】請求項16記載の発明によれば、プログラム読み取り方法は、固有情報と、プログラムとは別の情報記録媒体に記録されているプログラム内に格納されている判定用情報とを比較することにより正当性の判定を行なう請求項13、14または15記載のプログラム読み取り方法であることを特徴とする。

【0028】請求項17記載の発明によれば、プログラム読み取り方法は、情報記録媒体上の固有情報を取得した場合以外の所定領域に記録された判定用情報を取得し、判定用情報と固有情報とを比較することにより正当性の判定を行なう請求項13、14または15記載のプログラム読み取り方法であることを特徴とする。

【0029】請求項18記載の発明によれば、プログラム読み取り方法は、判定用情報は暗号化されて記録されており、暗号化されている判定用情報を復号した情報と固有情報とを比較することにより前記正当性の判定を行なう請求項17記載のプログラム読み取り方法であることを特徴とする。

【0030】請求項19記載の発明によれば、情報処理システムは、読み取り専用領域と書き込み可能領域とを備え、読み取り専用領域にメインプログラムと媒体判別用プログラムの少なくとも一方が格納された情報記録媒体と、情報記録媒体に対してメインプログラムを読み取る前に、媒体判別用プログラムを読み取る情報処理装置とを備えた情報処理システムであって、媒体判別用プログラムに基づいて情報記録媒体に予め形成されている蛇行溝に記録されている固有情報を取得する固有情報取得手段と、固有情報取得手段により固有情報が取得できない場合にはメインプログラムの読み取りを禁止する手段と、固有情報取得手段により固有情報が取得できた場合には固有情報に基づいて情報記録媒体の正当性を判定する正当性判定手段と、正当性判定手段により正当であると判断された場合にはメインプログラムの読み取りを許可し、不当であると判断された場合にはメインプログラムの読み取りを禁止する手段とを備えたことを特徴とする。

【0031】請求項20記載の発明によれば、情報処理システムは、読み取り専用領域と書き込み可能領域とを備え、読み取り専用領域にメインプログラムと媒体判別用プログラムの少なくとも一方が格納された情報記録媒

体と、情報記録媒体に対してメインプログラムを読み取る前に、媒体判別用プログラムを読み取る情報処理装置とを備えた情報処理システムであって、媒体判別用プログラムに基づいて情報記録媒体に予め形成されている蛇行溝に記録されている固有情報を取得する固有情報取得手段と、固有情報取得手段により固有情報が取得できない場合にはメインプログラムの読み取りを許可する手段と、固有情報取得手段により固有情報が取得できた場合には固有情報に基づいて情報記録媒体の正当性を判定する正当性判定手段と、正当性判定手段により正当であると判断された場合にはメインプログラムの読み取りを許可し、不当であると判断された場合にはメインプログラムの読み取りを禁止する手段とを備えたことを特徴とする。

【0032】請求項21記載の発明によれば、情報処理システムは、固有情報は、情報記録媒体に予め記録されている情報記録媒体の製造供給元毎に割り振られた製造供給元情報であり、固有情報取得手段は、製造供給元情報を読み出すことにより固有情報を取得する請求項19または20記載の情報処理システムであることを特徴とする。

【0033】請求項22記載の発明によれば、情報処理システムは、正当性判定手段は、固有情報とプログラムとは別の情報記録媒体に記録されているプログラム内に格納されている判定用情報とを比較することにより正当性の判定を行なう請求項19、20または21記載の情報処理システムであることを特徴とする。

【0034】請求項23記載の発明によれば、情報処理システムは、正当性判定手段は、情報記録媒体上の固有情報を取得した場所以外の所定領域に記録された判定用情報を取得し、判定用情報と固有情報とを比較することにより正当性の判定を行なう請求項19、20または21記載の情報処理システムであることを特徴とする。

【0035】請求項24記載の発明によれば、情報処理システムは、判定用情報は、暗号化されて記録されており、正当性判定手段は、暗号化されている判定用情報を復号した情報と固有情報とを比較することにより正当性の判定を行なう請求項23記載の情報処理システムであることを特徴とする。

【0036】【発明の実施の形態】次に、添付図面を参照して、本発明による書き込み可能型光ディスク、光ディスク書き込み装置、媒体判定用プログラム、記録媒体、プログラム読み取り方法、及び情報処理システムの実施の形態を詳細に説明する。

【0037】図1は、本発明に係る不正コピー判定用プログラムの使用環境について示す概略図である。

【0038】本実施形態においては、使用される情報記録媒体として読み取り専用領域と書き込み可能領域とを備えたハイブリッド型のCD-R（書き込み可能型コンパ

クトディスク)を例として説明を行なう。

【0039】図1において、ハイブリッドCD-Rディスク1は、PCに代表される情報処理装置3に接続されたCD-R/RWドライブ等の光ディスク装置2に挿入され、情報処理装置3からハイブリッドCD-Rディスク1上のアプリケーションプログラムを起動して使用される。

【0040】すなわち、ハイブリッドCD-Rディスク1に格納されたアプリケーションプログラムは、情報処理装置3上からの再生命令を受け取った光ディスク装置2により再生される。また、情報処理装置3から記録命令を受けた場合に、光ディスク装置2は前記ディスク1に情報の記録を行う。かかる動作について以下さらに詳細に説明する。

【0041】図2は、図1中のCD-R/RWドライブ2について、その要部構成の一例を示す機能ブロック図である。

【0042】図2において、CD-R/RWドライブ2は、図1中と同様の光ディスク1と、スピンドルモータ202と、光ピックアップ203と、モータドライバ204と、リードアンプ205と、サーボ手段206と、CDデコーダ207と、ATIPデコーダ208と、レーザコントローラ209と、CDエンコーダ210と、CD-ROMエンコーダ211と、バッファRAM212と、バッファマネージャ213と、CD-ROMデコーダ214と、ATAPI/SCSIインターフェース215と、D/Aコンバータ216と、ROM217と、CPU218と、RAM219とから構成される。また、LBはレーザ光、Audioはオーディオ出力信号を示す。

【0043】この図2において、矢印はデータが主に流れる方向を示しており、また、図を簡略化するために、図2の各ブロックを制御するCPU218には、太線のみを付けて各ブロックとの接続を省略している。ROM217には、CPU218にて読取可能なコードで記述された制御プログラムが格納されている。

【0044】なお、光ディスクドライブ(CD-R/RWドライブ2)の電源がオン状態になると、前記プログラムはそのプログラムのメインメモリにロードされ、CPU218はそのプログラムに従って上記各動作を制御するとともに、制御に必要なデータ等を一時的にRAM219に保存する。

【0045】光ディスクドライブ(CD-R/RWドライブ2)の構成と動作は、次のとおりである。

【0046】光ディスク1(ハイブリッドCD-Rディスク1)は、スピンドルモータ202によって回転駆動される。このスピンドルモータ202は、モータドライバ204とサーボ手段206により、線速度が一定になるように制御される。この線速度は、段階的に変更することが可能である。

【0047】光ピックアップ203は、図示されない半導体レーザ、光学系、フォーカスアクチュエータ、トラックアクチュエータ、受光素子を内蔵しており、レーザ光LBを光ディスク1に照射する。また、この光ピックアップ203は、シークモータによってスレッチ方向への移動が可能である。

【0048】これらのフォーカスアクチュエータ、トラックアクチュエータ、シークモータは、受光素子から得られる信号に基づいて、モータドライバ204とサーボ手段205により、レーザ光LBのスポットが光ディスク1上の目的の場所に位置するように制御される。

【0049】そして、リード時には、光ピックアップ203によって得られた再生信号が、リードアンプ205で増幅されて2値化された後、CDデコーダ207に人力される。

【0050】入力された2値化データは、このCDデコーダ207において、EFM(Eight to Fourteen Modulation)復調される。

【0051】なお、記録データは、8ビットずつまとめられてEFM変調されており、このEFM変調では、8ビットを14ビットに変換し、結合ビットを3ビット付加して合計17ビットにする。この場合に、結合ビットは、それまでの「1」と「0」の数が平均的に等しくなるように付けられる。これを「DC成分の抑制」といい、DCカットされた再生信号のスライスレベル変動が抑圧される。

【0052】復調されたデータは、デインタリーブとエラー訂正の処理が行われる。その後、このデータは、CD-ROMデコーダ214へ人力され、データの信頼性を高めるために、さらに、エラー訂正の処理が行われる。

【0053】このように2回のエラー訂正の処理が行われたデータは、バッファマネージャ213によって一旦バッファRAM212に蓄えられ、セクタデータとして揃った状態で、ATAPI/SCSIインターフェース215を介して、図3に示すようなホストコンピュータへ一気に転送される。

【0054】なお、音楽データの場合には、CDデコーダ207から出力されたデータが、D/Aコンバータ216へ人力され、アナログのオーディオ出力信号Audioとして取り出される。

【0055】また、ライト時には、ATAPI/SCSIインターフェース215を通じて、ホストコンピュータから送られてきたデータは、バッファマネージャ213によって一旦バッファRAM212に蓄えられる。

【0056】そして、バッファRAM212内にある程度の量のデータが蓄積された状態で、ライト動作が開始されるが、この場合には、その前にレーザスポットを書き込み開始地点に位置させる必要がある。この地点は、トラックの蛇行(蛇行溝)により予め光ディスク1上に

刻まれているウォブル信号によって求められる。

【0057】ウォブル信号には、ATIPと呼ばれる絶対時間情報が含まれており、この情報が、ATIPデコーダ208によって取り出される。

【0058】また、このATIPデコーダ208によって生成される同期信号は、CDエンコーダ210へ入力され、光ディスク上の正確な位置へのデータの書き込みを可能にしている。

【0059】バッファRAM212のデータは、CD-ROMエンコーダ211やCDエンコーダ210において、エラー訂正コードの付加や、インターリーブが行われ、レーザコントローラ209、光ピックアップ203を介して、光ディスク1に記録される。

【0060】なお、EFM変調されたデータは、ビットストリームとしてチャンネルビットレート4.3218 Mbps (標準速) でレーザを駆動する。この場合の記録データは、588チャンネルビット単位でEFMフレームを構成する。チャンネルクロックとは、このチャンネルビットの周波数のクロックを意味する。以上が、図2の光ディスクドライブの構成と動作の概要である。

【0061】図3は、上述のような光ディスクドライブ2(CD-R/RWドライブ2)が接続された図1における情報処理装置3の概略構成図である。

【0062】図3において、情報処理装置3は、インターフェース301と、主制御装置302と、記録装置305と、入力装置303と、表示装置304とから構成される。

【0063】主制御装置302は、マイクロコンピュータ、メインメモリ(いずれも不図示)などを含んで構成され、情報処理装置3の全体を制御する。

【0064】インターフェース301は、光ディスクドライブ2の双方方向の通信インターフェースであり、ATAPI及びSCSI等の標準インターフェースに準拠している。インターフェース301は光ディスクドライブのインターフェース(例えば、図2の215)と接続されている。

【0065】なお、各インターフェース間の接続形態は、通信ケーブル(例えばSCSケーブル)などの通信線を用いたケーブル接続だけでなく、赤外線などを利用したワイヤレス接続であってもよい。

【0066】ハードディスク等で構成される記録装置305には、主制御装置302のマイクロコンピュータで読取可能なコードで記述されたプログラムが格納されている。なお、情報処理装置3の駆動電源がオン状態になると、上記プログラムは主制御装置302のメインメモリにロードされる。

【0067】表示装置304は、例えば、陰極線管(CRT)、液晶ディスプレイ(LCD)、プラズマディスプレイパネル(PDP)などの表示部(図示省略)を備え、主制御装置302からの各種情報を表示する。

【0068】入力装置303は、例えば、キーボード、マウス、ポインティングデバイスなどのうち少なくとも1つの入力媒体(図示省略)を備え、ユーザから入力された各種情報を主制御装置302に通知する。

【0069】なお、入力媒体からの情報はワイヤレス方式で入力されてもよい。また、例えば、タッチパネル付きCRT等のように、表示装置304と入力装置303とが一体化されていてもよい。

【0070】また、情報処理装置3はオペレーティングシステム(以下「OS」という)を搭載している。そして、情報処理装置を構成する全てのデバイスはOSによって管理されているものとする。

【0071】図4は、図1中1で示されるハイブリッド型CD-Rディスク(書き込み可能型コンパクトディスク)の構造を示した概略図である。

【0072】ハイブリッド型CD-Rディスク1はセッションが複数形成されるマルチセッションの記録形式となっている。そして、第一セッションが読み取り専用領域(ROM領域)として予めスタンパされたビットが形成されている。

【0073】図4中、4は、この第一セッションを示しており、この領域に不正コピー判定機能を持ったアプリケーションプログラム(媒体判定用プログラム)やメインのプログラムなどを書き込んだソフトウェアプログラムが格納されている。

【0074】なお、本実施例においては、片込み可能型コンパクトディスクとしてCD-Rディスクが規定されているが、CD-Rディスク上には、その製造工程において、ATIP(Absolute Time In Pre-groove)が生成される。

【0075】なお、媒体判定用プログラムとメインプログラムは同一のセッション(例えば第一セッション)に記録されていてもよいし、別々のセッションに記録されていてもよい。

【0076】図5に示すように、一般的なCD-Rディスク(書き込み可能型コンパクトディスク)においては、その記録トラックはランド部Lとグルーブ部Gからなり、このグルーブGは、半径方向に微量量変行している。これをウォブリング(Wobbling)と呼び、Push-Pull Channel 1等で検出した信号をウォブル(Wobble)信号と呼ぶ。蛇行量は約±0.03μm程度である。

【0077】ウォブル信号は、ディスクを標準速度で回転させたとき、中心周波数が22.05KHz±1KHzでFM変調されている。この中心周波数が22.05KHzになるようにスピンドルモータ回轉を制御すると、ちょうどCD-Rの標準規格書であるRed Bookが規定する総速度1.2m/Sから1.4m/Sで回転するようになる。

【0078】FM変調されて重畳されているのは、ディ

スク上の絶対時間情報である。これはCD-R/DVDディスクではサブコードQチャンネルにエンコードされているが、記録前のディスクではこの情報が得られないので、ウォブル信号にエンコードされている。この手法を、ATIP (Absolute Time In Pre-groove) と言う。

【0079】1ATIPセクタは、記録後のメインチャンネルの1データセクタ(2352Byte)と一致しており、ATIPセクタとデータセクタの間隔をとりながら書き込みが行われる。

【0080】ATIP情報は、そのままウォブル信号にエンコードされておらず、図6のように、一度Biphase変調がかけられてから、FM変調される。これは、ウォブル信号を回転制御にも用いるためである。すなわち、Biphase変調によって所定周期ごとに1と0が入れ替わり、かつ1と0の平均個数が1:1になるようにし、FM変調したときのウォブル信号の平均周波数が2.05KHzになるようにしている。

【0081】なお、ATIPには、時間情報以外に、Special Informationとして、記録レーザーパワー設定情報やリードインエリアの開始時間、リードアウトエリアの開始可能時間等もエンコードされている。マルチセッションの記録形式の場合、このSpecial Informationは第一セッションのリードインエリア内(ディスク半径で5.0mmより内周側)にエンコードされている。

【0082】本実施形態のディスク1上には、その製造工程に於いて、第二セッション以降の書き込み可能領域だけでなく、第一セッションのROM領域にも、蛇行溝(ウォブル)が形成される。そして、この蛇行溝にATIP (Absolute Time In Pre-groove) が生成される。

【0083】ATIP中のSpecial Informationには、リードアウトエリアの開始可能時間 (Last Possible Start Time of Lead out Area) の情報が含まれており、該情報は、Minute, Second, Frameの各情報から成り、それぞれに値が割り当てられている。

【0084】これらの情報のうち、Frame (フレーム) 情報については、業界団体「Orange Forum」が各メディアベンダー (ディスクの製造供給元) に対して複数の固有値を割り振っており、各メディアベンダーは、前記割り振られた固有値を、自社のメディアに割り振るようにしている。

【0085】つまり、各ハイブリッドCD-R/DVDディスク1のATIPのLast Possible Start Time of Lead out Areaのフレーム値は、メディアの種類毎に固有の値を持っており、この値は、ドライブに対し、Read ATIPコマンドを実行することにより、取得可能となる。なお、ハイブリッドCD-R/DVDディスク1、ATIP等に

関しては「Orange Book」に詳しい。

【0086】本例では、前記「ATIPのLast Possible Start Time of Lead out Areaのフレーム値」(以降フレーム値)をディスク固有情報値として使用するものとする。また、本例では、前記フレーム値としてFF・(hex)という値をもつディスクを、本発明に係わるディスクとして使用するものとして説明する。

【0087】以下、本発明による書き込み可能型光ディスク、光ディスク書き込み装置、媒体判定用プログラム、記録媒体、プログラム読み取り方法、及び情報処理システムの一実施形態たる第1の実施例について説明する。

【0088】図7は、ディスク1に格納されたプログラムを再生する場合の情報処理装置内の制御装置(図3の302)の動作例を示すフローチャートである。なお、本フローチャートによる動作は図1ないし図3に示す上述のシステムにおいて、図4に示す上述のディスク(書き込み可能型コンパクトディスク)を使用したときの動作を示している。

【0089】ユーザがディスク1内に格納されたメインプログラムを再生しようとする、制御装置302は、そのメインプログラムの再生に先立ち媒体判定用のプログラムを再生する(S5)。以下のステップの処理・動作は媒体判定用プログラムに従って、制御装置302が行なう処理・動作である。ここで、メインプログラムと媒体判定用プログラムはそれぞれ別のプログラムとしてディスクに格納されていてもよいし、メインプログラムが媒体判定用プログラムの機能を有していてもよい。

【0090】この媒体判定用プログラムに従って、制御装置302は、Read ATIPコマンドをディスクドライブ3に発行する(S6)。ディスクドライブ3はこのRead ATIPコマンドに基づいて、リードインエリアの中のSpecial Informationを有するATIPの取得を試みることをする。

【0091】そして、制御装置302は、このATIPを取得できた場合にはS8の処理を行ない、取得できなかった場合にはS12にあるメインプログラムの起動を中止する(S7)。すなわち、例えば、再生専用ドライブのように制御装置302によりRead ATIPコマンドが発行されてもそれに応じた動作を行なわず、ATIPを取得できない場合にはメインプログラムの再生を禁止するものである。

【0092】このようにすることで、何らかの記録を行うことを前提として配布、販売されるハイブリッド型CD-Rのメインプログラムを再生専用ドライブで再生することを防止できる。これにより、その後の制御装置302がドライブに対して記録命令を発行した時にエラーとなることを事前に防止できる。

【0093】制御装置302が所定のATIPを取得で

17

きた場合には、制御装置302は、その情報に含まれる前記フレーム値を取得する(8)。

【0094】次に、制御装置302は、使用中のディスクが正当なディスクであるか否かの判定を行うが詳細については後述する(9)。

【0095】S9の判定処理において、制御装置302によりディスクが正当であると判定された場合にはS11の処理に進みメインプログラムの起動を行なう。一方、ディスクが正当でないとして判断された場合にはS12に進みメインプログラムの起動を中止する(S10)。

【0096】メインプログラムの再生が許可あるいは禁止された場合に、媒体判定用プログラムに基づく制御装置302の制御は終了する(S13)。これにより、不正にコピーされたディスク内のメインプログラムの再生を効果的に防止することができる。

【0097】図9に、上記S9における制御装置302が行なう正当性判定の処理の一例を示す。

【0098】S8において、制御装置302がフレーム値を取得すると、制御装置302は媒体判定用プログラム内に格納されている判定用のフレーム値を読み出す(S18)。

【0099】次に、制御装置302は、S8において上記ATIPから取得したフレーム値と、S18において読み出した判定用フレーム値とを比較し、両者が一致している場合にはそのディスクは正当であると判断し、不一致の場合にはそのディスクは正当でない、つまり不当であると判断する(S19)。

【0100】図10に、上記S9における制御装置302が行なう正当性判定の処理の他の一例を示す。

【0101】S8において、制御装置302がフレーム値を取得すると、制御装置302はディスクの特定領域に記録されている判定用のフレーム値を読み出す(S20)。

【0102】ISO9660フォーマットで記録を行っている場合、この特定領域としては、PVD (Primary Volume Descriptor) 内のアプリケーション領域(offset 883-1395)等が考えられる。

【0103】また、このディスク内の特定領域に書き込まれている判定用フレーム値の・F・が暗号化されている、特定領域をセクタダンプなどで読みだしても、該判定用フレーム値が第三者に漏洩することを避けることができる。ここで、暗号化の方式としてはDES (Data Encryption Standard) 等公知の暗号化方式が考えられる。

【0104】なお、フレーム値を暗号化する場合には、媒体判定用プログラムに基づいて制御装置302は暗号化されたフレーム値の復号化処理を行うことにより、判定用フレーム値を取得することとなる。このとき暗号を解く鍵は媒体判定用プログラム自体が有しているものし、ユーザからの入力を要求してもよい。

18

【0105】次に、制御装置302は、S8において上記ATIPから取得したフレーム値と、S20において読み出した判定用フレーム値とを比較し、両者が一致している場合にはそのディスクは正当であると判断し、不一致の場合にはそのディスクは正当でない、つまり不当であると判断する(S19)。

【0106】ここで、本発明に係るハイブリッドCD-Rを複製した場合には、コピー先のディスクにおけるATIPのLast Possible Start Time of Lead out Areaのフレーム値は・FF・以外となる。

【0107】従って、不正コピーしたディスクは、判定方法の第一および他の一例とも、判定用フレーム値(・FF・)とRead ATIPコマンドで読み取ったフレーム値(・FF・以外)は一致しないため、ディスクが不正にコピーされたものかどうか判定でき、結果として、メインプログラムは起動しないこととなる。つまり「コピーは出来ても、中身を使えない」ことになる。

【0108】次に、本発明による書き込み可能型光ディスク、光ディスク書き込み装置、媒体判定用プログラム、記録媒体、プログラム読み取り方法、及び情報処理システムの実施形態たる第2の実施例について説明する。

【0109】図8は、ディスク1に格納されたプログラムを再生する場合の情報処理装置内の制御装置(図3の302)の動作例を示すフローチャートである。なお、本フローチャートによる動作は図1ないし図3に示す上述のシステムにおいて、図4に示す上述のディスク(書き込み可能型コンパクトディスク)を使用したときの動作を示している。

【0110】ユーザがディスク1内に格納されたメインプログラムを再生しようとする、制御装置302は、そのメインプログラムの再生に先立ち媒体判定用のプログラムを再生する(S5)。以下のステップの処理・動作は媒体判定用プログラムに従って、制御装置302が行なう処理・動作である。

【0111】ここで、メインプログラムと媒体判別用プログラムはそれぞれ別のプログラムとしてディスクに格納されていてもよいし、メインプログラムが媒体判別用プログラムを有しているものでもよい。

【0112】この媒体判別用プログラムに従って、制御装置302は、Read ATIPコマンドをディスクドライブ3に発行する(S6)。ディスクドライブ3はこのRead ATIPコマンドに基づいて、リードインエリアの中のSpecial Informationを有するATIPの取得を試みることとなる。

【0113】そして、制御装置302は、このATIPを取得できた場合にはS8の処理を行ない、取得できなかった場合にはS15にあるメインプログラムを起動する(S14)。すなわち、例えば、再生専用ドライブの

ように制御装置 302 により Read ATIP コマンドが発行されてもそれに応じた動作を行なえず、ATIP を取得できない場合にはメインプログラムの再生を許可するものである。

【0114】このようにすることで、何らかの記録を行うことを前提として配布、販売されるハイブリッド型 CDR のメインプログラムを再生専用ドライブで再生することのみは許可されることとなる。この場合メインプログラムの一部のプログラムのみを再生するようにしてもよい。再生のみ行なうことで、そのハイブリッドディスクをいわゆるデモ用ディスクとしては使用することができる。

【0115】制御装置 302 が所定の ATIP を取得できた場合には、制御装置 302 は、その情報に含まれる前記フレーム値を取得する (S8)。

【0116】次に、制御装置 302 は、使用中のディスクが正当なディスクであるか否かの判定を行う (S9)。この処理は、上述の図 9、図 10 で説明したものと同様である。

【0117】S9 の判定処理において、制御装置 302 によりディスクが正当であると判定された場合には S15 の処理に進みメインプログラムの起動を行なう。一方、ディスクが正当でないと判断された場合には S16 に進みメインプログラムの起動を中止する (S10)。

【0118】メインプログラムの再生が許可あるいは禁止された場合に、媒体判定用プログラムに基づく制御装置 302 の制御は終了する (S17)。

【0119】これにより、不正にコピーされたディスク内のメインプログラムの再生を効果的に防止することができる。

【0120】なお、本発明に使用されるディスクの作成方法について、前記ディスクの特定領域に判定用フレーム値を記録する方法を中心に説明する。

【0121】図 11 は、本発明で使用するディスク 1 の特定領域に、判定用フレーム値として、ATIP のディスク固有情報値を書き込む処理を中心にディスクの作成動作を示したフローチャートである。なお、本方法では、対象となるディスクの論理フォーマットとして ISO 9660 を採用する。

【0122】本例の説明は、図 1 ないし図 3 で説明を行なったシステムを用いて行なう。ユーザ要求により制御装置 302 は書き込み処理をスタートさせる (S22)。

【0123】まず、制御装置 302 は書き込みデータを記録装置 305 等から制御装置内にメモリ上に読み込む (S23)。

【0124】続いて、ファイル作成段階として、制御装置 302 は読み込んだ対象の書き込みデータをイメージファイルとして記録装置 305 (ハードディスク) 上などに作成する (S24)。なお、この書き込み対象

データには、不正コピー判定機能を持ったアプリケーションプログラム、すなわち媒体判定用プログラムやメインプログラムが含まれる。

【0125】次に、制御装置 302 は、イメージファイル作成段階の後、Read ATIP コマンドを発行する (S25)。

【0126】制御装置 302 は、書き込み対象ディスクの ATIP 情報を Read ATIP コマンドにより取得し、フレーム値取得段階で、Last Possible Start Time of Lead out Area のフレーム値を取得する (S26)。

【0127】さらに、制御装置 302 は、取得したフレーム値を、イメージファイル内の特定領域に書き込む (S27)。ここで、フレーム情報が埋め込まれる特定領域は、図 7 に示すように ISO 9660 フォーマットの PVD (Primary Volume Descriptor) 内のアプリケーション領域 (offset 883 ~ 1395) 等である。また、フレーム情報はフレーム値そのままでよく、フレーム値を暗号化したものでもよい。

【0128】その後、制御装置 302 は、フレーム情報が埋め込まれたイメージファイルをディスクに書き込み (S28)、書き込み処理を終了する (S29)。

【0129】このように作成されたディスクの第一セッションには、不正コピー判定機能を持ったアプリケーションプログラムとして媒体判定用プログラムが書き込まれており、同ディスクの特定領域 (PVD のアプリケーション領域) には、判定用フレーム値である D.F. が書き込まれている。

【0130】また、本例では、簡単なため、図 1 ないし図 3 のシステムを利用して、通常の CDR ディスクに対して記録を行う場合について説明するが、本発明は本例に限られない。すなわち、上記のシステムとは別のシステムにて、図 11 に示す各処理を行っていき、S27 で取得したフレーム値をイメージファイル内の PVD 領域に書き込んだ後、通常の CD 生産プロセスと同様にマスタリング、スタンパ作成、レリケーション工程を経てハイブリッド型の CDR を製造するようにしてもよい。

【0131】なお、本実施例では、記録メディアとして、主としてハイブリッド型 CDR を使用した場合について説明を行なったが、これに限らず、CD-R/RW、DVD+RW/±R、ハイブリッド型 CD-RW、ハイブリッド型 DVD+R/±R 等の書き込み可能領域を有するメディア (情報記録媒体) に適用できる。

【0132】

【発明の効果】本発明によれば、不正コピー判定機能を備えたディスクの情報再生等において特殊な光ディスク装置を不要とし、従来の光ディスク装置であっても不正コピーされたディスクの使用を不可能にすることがで

き、あるいは用途を限定することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明に係わる不正コピー判定機能付メディアの使用環境について示す概略図である。

【図 2】本発明で使用される光ディスク装置の概略ブロック図である。

【図 3】本発明で使用する上位装置の概略ブロック図である。

【図 4】本発明で使用する情報記録媒体の模式図である。

【図 5】本発明で使用する情報記録媒体の記録トラックの模式図である。

【図 6】本発明で使用する情報記録媒体が有する A T I P 情報を示した図である。

【図 7】本発明に係わる媒体の正当性を判定する動作の第一のフローチャートである。

* 【図 8】本発明に係わる媒体の正当性を判定する動作の第二のフローチャートである。

【図 9】本発明に係わる判定ルーチンにおける判定方法の一例を示すフローチャートである。

【図 10】本発明に係わる判定ルーチンにおける判定方法の他の一例を示すフローチャートである。

【図 11】本発明で使用するプログラム及びフレーム値を情報記録媒体に書き込む処理を示すフローチャートである。

10 【図 12】本発明に係わるフレーム情報が産め込まれる特定領域を示す概念図である。

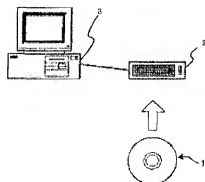
【符号の説明】

1 ハイブリッド C D-R ディスク（書き込み可能型コンパクトディスク）

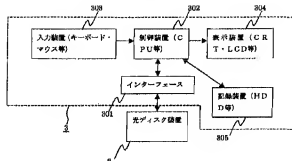
2 C D-R/RW ドライブ（光ディスク装置）

3 P C（情報処理装置）

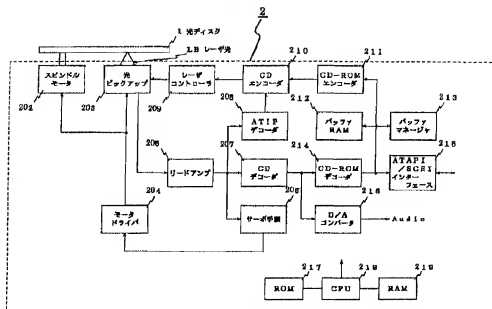
【図 1】



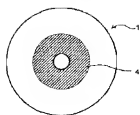
【図 3】



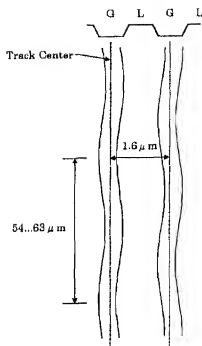
【図 2】



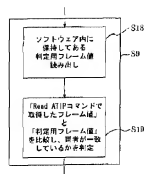
【図4】



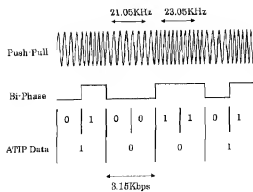
【図5】



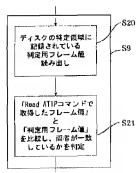
【図9】



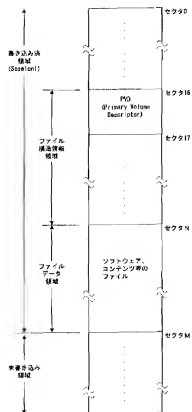
【図6】



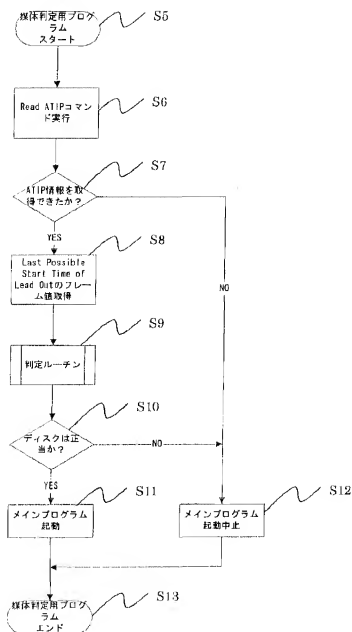
【図10】



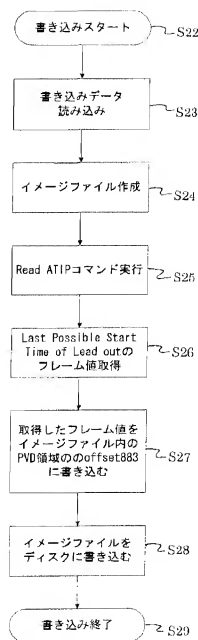
【図12】



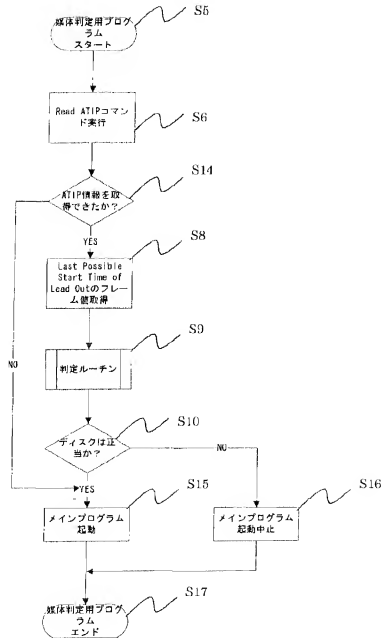
【図7】



【図11】



【図8】



【手続補正書】

【提出日】平成14年10月8日（2002. 10. 8）

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 予めソフトウェアが書き込まれている書き込み可能型光ディスクにおいて、前記ソフトウェアを起動する際に、前記ソフトウェアもしくはソフトウェアの関連プログラムが前記光ディスクのATIP（Absolute Time In Pre-groove）のディスク固有情報値を読み出し、前記情報値が正しいと判断された場合にのみ起動プロセスを続行し、前記情報値が誤りと判断された場合には起動プロセスを停止するよう構成したことを特徴とする

る書き込み可能型光ディスク。

【請求項2】 該光ディスクに予め書き込まれているソフトウェアを起動する際に、前記ソフトウェアが、前記光ディスクのA T I Pのディスク固有情報値と、前記ソフトウェア内に予め保持している判定用情報値とを比較し、両者が合致している場合にのみ起動プロセスを執行し、両者が異なっている場合には起動プロセスを停止するよう構成したことを特徴とする請求項1記載の書き込み可能型光ディスク。

【請求項3】 該光ディスクに予め書き込まれているソフトウェアを起動する際に、前記ソフトウェアが、前記光ディスクのA T I Pのディスク固有情報値と、前記光ディスクの特定領域に予め書き込まれている判定用情報値とを比較し、両者が合致している場合にのみ起動プロセスを執行し、両者が異なっている場合には起動プロセスを停止するよう構成したことを特徴とする請求項1記載の書き込み可能型光ディスク。

【請求項4】 該光ディスクの特定領域に予め書き込まれている判定用情報値を暗号化してあることを特徴とする請求項3記載の書き込み可能型光ディスク。

【請求項5】 請求項1から4のいずれか1項に記載の書き込み可能型光ディスクのA T I Pのディスク固有情報値と、前記光ディスクの特定領域に書き込むよう構成したことを特徴とする光ディスク書き込み装置。

【請求項6】 読み取り専用領域と書き込み可能領域とを備えた情報記録媒体の前記読み取り専用領域にメインプログラムと共に格納され、前記メインプログラムがコンピュータに読み取られる前に、該コンピュータに読み取られる媒体判定用プログラムであって、

前記コンピュータに、
前記情報記録媒体に予め形成されている蛇行溝に記録されている固有情報値を取得する固有情報取得工程と、
該固有情報取得工程により前記固有情報値が取得できない場合には前記メインプログラムの読み取りを禁止する工程と、

前記固有情報取得工程により前記固有情報値が取得できた場合には該固有情報に基づいて前記情報記録媒体の正当性を判定する正当性判定工程と、
該正当性判定工程により正当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを許可し、不当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを禁止する工程と、

を実行させるための媒体判定用プログラム。

【請求項7】 読み取り専用領域と書き込み可能領域とを備えた情報記録媒体の前記読み取り専用領域にメインプログラムと共に格納され、コンピュータが前記メインプログラムを読み取るのに先立ち、該コンピュータに読み取られる媒体判定用プログラムであって、

前記コンピュータに、

前記情報記録媒体に予め形成されている蛇行溝に記録さ

れている固有情報値を取得する固有情報取得工程と、
該固有情報取得工程により前記固有情報値が取得できない場合には前記メインプログラムの読み取りを許可する工程と、

前記固有情報取得工程により前記固有情報値が取得できた場合には該固有情報に基づいて前記情報記録媒体の正当性を判定する正当性判定工程と、
該正当性判定工程により正当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを許可し、不当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを禁止する工程と、

を実行させるための媒体判定用プログラム。

【請求項8】 前記固有情報は、情報記録媒体の製造供給元毎に割り振られた製造供給元情報であり、前記固有情報取得工程は、前記製造供給元情報を読み出すことにより前記固有情報値を取得することを特徴とする請求項6または7に記載の媒体判定用プログラム。

【請求項9】 前記正当性判定工程は、前記固有情報と前記媒体判定用プログラム内に格納されている判定用情報とを比較することにより前記正当性の判定を行うことを特徴とする請求項6、7または8記載の媒体判定用プログラム。

【請求項10】 前記正当性判定工程は、前記情報記録媒体上の前記固有情報値を取得した場所以外の所定領域に記録された判定用情報値を取得し、該判定用情報と前記固有情報とを比較することにより前記正当性の判定を行うことを特徴とする請求項6、7または8記載の媒体判定用プログラム。

【請求項11】 前記判定用情報は暗号化されて記録されており、前記正当性判定工程は、前記暗号化されている判定用情報を復号した情報と前記固有情報とを比較することにより前記正当性の判定を行うことを特徴とする請求項10記載の媒体判定用プログラム。

【請求項12】 請求項6から11のいずれか1項に記載の媒体判定用プログラムを前記メインプログラムと共に前記読み取り専用領域に記録したコンピュータ読み取り可能な情報記録媒体。

【請求項13】 読み取り専用領域と書き込み可能領域とを備え、前記読み取り専用領域にメインプログラムと媒体判別用プログラムの少なくとも一方が格納された情報記録媒体に対して前記メインプログラムをコンピュータで読み取る前に、前記媒体判別用プログラムをコンピュータで読み取るプログラム読み取り方法であって、前記媒体判別用プログラムに基づいて前記情報記録媒体に予め形成されている蛇行溝に記録されている固有情報の取得を試み、

前記固有情報が取得できない場合には前記メインプログラムの読み取りを禁止し、
前記固有情報が取得できた場合には該固有情報に基づいて前記情報記録媒体の正当性を判定し、

正当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを許可し、不当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを禁止することを特徴とするプログラム読み取り方法。

【請求項 14】 読み取り専用領域と書き込み可能領域とを備え、前記読み取り専用領域にメインプログラムと媒体判別用プログラムの少なくとも一方が格納された情報記録媒体に対して前記メインプログラムをコンピュータで読み取る前に、前記媒体判別用プログラムをコンピュータで読み取るプログラム読み取り方法であって、前記媒体判別用プログラムに基づいて前記情報記録媒体に予め形成されている蛇行溝に記録されている固有情報の取得を試み、

前記固有情報が取得できない場合には前記メインプログラムの読み取りを許可し、

前記固有情報が取得できた場合には該固有情報に基づいて前記情報記録媒体の正当性を判定し、

正当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを許可し、

不当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを禁止することを特徴とするプログラム読み取り方法。

【請求項 15】 前記固有情報は前記情報記録媒体に予め記録されている情報記録媒体の製造供給元毎に割り振られた製造供給元情報であり、前記製造供給元情報を読み出すことにより前記固有情報を取得することを特徴とする請求項 13 または 14 記載のプログラム読み取り方法。

【請求項 16】 前記固有情報と、前記プログラムとは別の前記情報記録媒体に記録されているプログラム内に格納されている判定用情報と、を比較することにより前記正当性の判定を行なうことを特徴とする請求項 13、14 または 15 記載のプログラム読み取り方法。

【請求項 17】 前記情報記録媒体上の前記固有情報を取得した場所以外の所定領域に記録された判定用情報を取得し、該判定用情報と前記固有情報とを比較することにより前記正当性の判定を行なうことを特徴とする請求項 13、14 または 15 記載のプログラム読み取り方法。

【請求項 18】 前記判定用情報は暗号化されて記録されており、前記暗号化されている判定用情報を復号した情報と前記固有情報とを比較することにより前記正当性の判定を行なうことを特徴とする請求項 17 記載のプログラム読み取り方法。

【請求項 19】 読み取り専用領域と書き込み可能領域とを備え、前記読み取り専用領域にメインプログラムと媒体判別用プログラムの少なくとも一方が格納された情報記録媒体と、該情報記録媒体に対して前記メインプログラムを読み取る前に、前記媒体判別用プログラムを説

み取る情報処理装置とを備えた情報処理システムであって、

前記媒体判別用プログラムに基づいて前記情報記録媒体に予め形成されている蛇行溝に記録されている固有情報を取得する固有情報取得手段と、

該固有情報取得手段により前記固有情報が取得できない場合には前記メインプログラムの読み取りを禁止する手段と、

前記固有情報取得手段により前記固有情報が取得できた場合には該固有情報に基づいて前記情報記録媒体の正当性を判定する正当性判定手段と、

該正当性判定手段により正当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを許可し、不当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを禁止する手段と、

を備えたことを特徴とする情報処理システム。

【請求項 20】 読み取り専用領域と書き込み可能領域とを備え、前記読み取り専用領域にメインプログラムと媒体判別用プログラムの少なくとも一方が格納された情報記録媒体と、該情報記録媒体に対して前記メインプログラムを読み取る前に、前記媒体判別用プログラムを読み取る情報処理装置とを備えた情報処理システムであって、

前記媒体判別用プログラムに基づいて前記情報記録媒体に予め形成されている蛇行溝に記録されている固有情報を取得する固有情報取得手段と、

該固有情報取得手段により前記固有情報が取得できない場合には前記メインプログラムの読み取りを許可する手段と、

前記固有情報取得手段により前記固有情報が取得できた場合には該固有情報に基づいて前記情報記録媒体の正当性を判定する正当性判定手段と、

該正当性判定手段により正当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを許可し、不当であると判断された場合には前記メインプログラムの読み取りを禁止する手段と、

を備えたことを特徴とする情報処理システム。

【請求項 21】 前記固有情報は、前記情報記録媒体に予め記録されている情報記録媒体の製造供給元毎に割り振られた製造供給元情報であり、前記固有情報取得手段は、前記製造供給元情報を読み出すことにより前記固有情報を取得することを特徴とする請求項 19 または 20 記載の情報処理システム。

【請求項 22】 前記正当性判定手段は、前記固有情報と前記プログラムとは別の前記情報記録媒体に記録されているプログラム内に格納されている判定用情報とを比較することにより前記正当性の判定を行なうことを特徴とする請求項 19、20 または 21 記載の情報処理システム。

【請求項 23】 前記正当性判定手段は、

前記情報記録媒体上の前記固有情報を取得した場合以外の所定領域に記録された判定用情報を取得し、該判定用情報と前記固有情報とを比較することにより前記正当性の判定を行なうことを特徴とする請求項19、20または21記載の情報処理システム。

【請求項24】 前記判定用情報は、暗号化されて記録されており、前記正当性判定手段は、前記暗号化されている判定用情報を復号した情報と前記固有情報とを比較することにより前記正当性の判定を行なうことを特徴とする請求項23記載の情報処理システム。

【手続補正2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0017
【補正方法】変更
【補正内容】

【0017】請求項6記載の発明によれば、媒体判定用プログラムは、読み取り専用領域と書き込み可能領域とを備えた情報記録媒体の読み取り専用領域にメインプログラムと共に格納され、メインプログラムがコンピュータで読み取られる前に、コンピュータに読み取られる媒体判定用プログラムであって、コンピュータに、情報記録媒体に予め形成されている蛇行溝に記録されている固有情報を取得する固有情報取得工程と、固有情報取得工程により固有情報が取得できない場合にはメインプログラムの読み取りを禁止する工程と、固有情報取得工程により固有情報が取得できた場合には固有情報に基づいて*

* 情報記録媒体の正当性を判定する正当性判定工程と、正当性判定工程により正当であると判断された場合にはメインプログラムの読み取りを許可し、不当であると判断された場合にはメインプログラムの読み取りを禁止する工程とを実行させることを特徴とする。

【手続補正3】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0018
【補正方法】変更
【補正内容】
【0018】請求項7記載の発明によれば、媒体判定用プログラムは、読み取り専用領域と書き込み可能領域とを備えた情報記録媒体の読み取り専用領域にメインプログラムと共に格納され、コンピュータがメインプログラムを読み取るのに先立ち、コンピュータに読み取られる媒体判定用プログラムであって、コンピュータに、情報記録媒体に予め形成されている蛇行溝に記録されている固有情報を取得する固有情報取得工程と、固有情報取得工程により固有情報が取得できない場合にはメインプログラムの読み取りを許可する工程と、固有情報取得工程により固有情報が取得できた場合には固有情報に基づいて情報記録媒体の正当性を判定する正当性判定工程と、正当性判定工程により正当であると判断された場合にはメインプログラムの読み取りを許可し、不当であると判断された場合にはメインプログラムの読み取りを禁止する工程とを実行させることを特徴とする。

フロントページの続き

(51)Int. Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード(参考)
G 1 1 B	7/30	G 1 1 B	Z
	20/12		

Fターム(参考) 5B017 AA06 BB03 CA09
5B065 BA04 PA04 PA13 PA16
5B044 BC03 BC04 CC06 DE37 DE50
DE53 GK12 GK17 HL02 HL08
5B090 AA01 BB02 BB03 BB04 CC14
DD03 DD05 FF09 GG03 GG36
HH01